

もう1つ、2点目としましては、こういったことをやっていく上では、一般的に、今、地域で活動を展開していく上では、自治体とか公的な機関、そういったところとどう連携をしていくのか、あとは、やはりお金のかかることだったりすると思いますので、そういった活動助成であったりとか、そういった、世間的によく言います紐つきのお金をどう使っていくかとか、そういった運営面の部分でいろいろシビアなことというもあるのかなと思ひまして、課題にもなるのかなとは思いますが、そういったことも含めて、今、立ち向かっている壁と申しますか、と、それからあとは、自治体さんとか公的な機関、そういった部分とのおつき合いの仕方といったことに関してもそれぞれにお答えいただけたらと思うんですが、これに関しては順番というよりは、もし、今、私、こういうことを考えていますということが一番最初にお答えいただけるようであれば、どなたでも。特に御指名はいたしません。いかがでしょうか。じゃあ、ジジからまずよろしくお願ひいたします。

【竹内】 今の御質問と申しますか、ポイントの、まず公的機関あるいは自治体の助成というものをどうやって引き出すかということですが、これは、どうしても自治体は、推進策をいろいろ提案はするけれども、呼び込むことがもう1つ一般に浸透しないという面があるんですね。だから、やはり基本的には、やりたい人が、その自治体の制度なり、助成制度を引っ張り出すような積極性が一番ものを言うのではないかなと。

実はたまたま横浜市の担当官が、今日、お見えなんです。

そういう行政の力を引き出すとか、アピールするというのがまず我々がやらなきゃいけないことなのかなと。そういう積極性というのは、やっぱりやる目的を持った人が主体的に動かないと効果が薄いというか、せっかくいい制度があるのに引っ張り出せない。という感じを私自身は持っています。

それからもう1つ、自分たちの悩みというのは、我々の平均年齢は70歳を超えているわけです。最近、若い人と言ったら、60歳代が2人おられますけれども、私なんかは最高齢で78歳です。ですから、あと10年という、ちょっと自信がないですね。だから、10年先を見たときに今の活動が継続できる後継者探し、これは全てのいろいろな団体の悩みでしょうけれども、どうやって引っ張り出せるかというのは、さっき言った共通の、あるいは共有できる目標なり目的を皆さんに説明したり、あるいは知ってもらうということをもう少し積極的にやらないかのかなと、これは当たり前のことですけれども。

そのときに、やはりこういうことをすればあなたの力が生かせるということでは、ちょっと説得力が弱いんですね。やっぱり本人が体験したいとか、さっきわくわく感と言いましたけれども、日常の中で自分なりのわくわく感がどうやったら感じられるかというところの説明が一番肝要なんですね。と私は思って、そういう、言ってみれば自分自身の姿を見せることもそれですけれども、そういった喜び、わくわく感を、来て、見てもらうというようなところから、そういう人探し、人材探しをやるのかなと思うんですけれども、これがなかなか難しいですね。言い得て簡単、やって難しいというのが人材探しだと思っています。

【桑原】 そうですね、竹内さんと同じく、壁は人に尽きると申しますね。初期だったら、BABAラボといいながら、おばあちゃんが最初は集まらなかったという致命的な壁がありまして、結局どうやっていったかという、地域のおばあちゃんたちになじみのある公民館なんかで手芸教室を開いて、そこで、手芸好きなの？ こういうのをやるんだけど、どうかな？ というのを一人一人声をかけて、1人入っては1人抜け、2人入っては2人抜けみたいのを繰り返して、おばあちゃんたちが定着するまで1年以上はかかりましたね。10人ぐらい集まってくれば、あとは楽しそうだと、どんどん集まってくるんですが、最初の人集めがとても苦労しました。

人以外にお金などでもいつも苦労しているんですけれども、結局今も、その哺乳瓶にお金がかかります。資金を回収するためには売らなきゃいけない。でもそれって、一見お金の問題にも見えるんですけれども、やっぱりどう売っていくかとか、その商品がどうおばあちゃんのためになる商品なのかとか、そういうのを考えるのはやっぱり人なので、じゃあ、どんな人とアイデアを出して、どんな人とその販売の戦略を練っていくかとか、やっぱり人ですね。

人とのつながりというところは、いつも課題というんですか、アンテナ張って、どんなところにどんな人がいるかなど、いつも見渡しているという、課題とはちょっと違うかもしれませんね。いつもそういう状態ですね。公的機関とのつながりといいますと、うちは自己資金で始めているので、最初はそんなに苦労なかったんですが、今、哺乳瓶の金型をつくる時には、ものづくりの補助金というのを申請して、今、それを使っています。でも、これをただの補助金と見てしまうと、ありがたいという感じなんですけれども、使い方としては、融資を受けたというか、税金を使って投資してもらったという、そういう気持ちでいます。やっぱりその哺乳瓶をきちんと売って、その投資してもらった分を返していくと。補助金というのは別にもらえるお金ではないので、将来的には事業を介してきちんと売っていかなくちゃいけないお金なので、そういう気持ちを忘れずに使うということですね。公的機関とのつき合いというのは、だからそこがウィン・ウィンになることで、そういうお金を投資してもらったり、大学とのつながりで口をきいてもらったりとか、そういう支援を受けることはあるんですが、その逆としては、やっぱり地域の雇用をつくるとか、地域でシニアの雇用をつくるとか、経済効果を上げるとか、多世代で取り組み、その地域のブランド価値を上げるみたいな成果をきちんと上げて、それをきちんと数値化して行政に提供する。

そうすると行政のほうも、うちの地域ではBABAラボさんという、こういう取組があって、それで地域が盛り上がっているんですよと向こうも言える。何かお互いがそういう得をする関係になれるというのは、いつも気を使ってやっているところではあります。

【朝山】 課題だらけで、どれを言えばかわからないんですが、人とお金というのは常に課題です。それは当たり前過ぎる課題なのであれなんですけれども、私たちの団体の特徴としての課題は、子供に向けてやるということをしているんですけれども、子供にだけやってもだめで、学校でプログラムをやる時には、その先に先生という大人がいるんですよ。学校ではない、子供個人のプログラムを、今、やっているんですけれども、個人に対してプログラムをやる時には、その先に必ず親がいるんです。大人というものがついて回る。子供にだけ納得のいくプログラムをやってもだめで、やっぱり丸ごと、先ほど竹内さんも仰っているように、先生の御理解、校長の理解がすごく必要というところにとっても苦労をし続けてきています、竹内さんのことが本当によくわかりますという感じなんですけれども。先生は、この日本の社会が変わってきているという、その画一的な養育をし続けてきたのでは、これから子供を育てるという意味で難しいのだということへの転換がなかなかしにくいので、理解を促進するのが私にとっては困難に感じていること。

あとは親も、一辺倒な価値観で子供の進学とか将来のことを考えてしまいがちなので、こういう一流企業に入れば楽よとか、一生安泰よみたいな話ってどこに行ってもあると思うんですけれども、そうではない子もいるということを理解する、親の理解という、大人の理解の促進というところは大きな課題なので、去年ぐらいから特に強化をし始めているところです。ということが1つ大きな課題です。社会の変化にうまくバランスをとりながら進むみたいな、NPOが10歩先へ行ってもだめなんですね。半歩先へ行くぐらいの進め方をするというのが大事だなと思っています。それから自治体との連携というのは、おかげさまで、経産省、文科省、神奈川県や川崎市とはいろいろと組ませていただいて、やらせていただいております。都度、課題はたくさんありますけれども、うまくいくときは、やりたい行政側がいて、やりたいNPOがいるという意図が一致したときにすごくハッピーになる。でもそこに何かずれがあったりすると、あれ？ 何か違うんだけど、となっちゃうと、ちょっと不幸が起きるときもあります。

私たちとして、これからは自治体に提言をどんどんしていきたいなと思っておりまして、団体も大きくはないんですけれども、私が代表としての仕事として、PR、キーパーソンの活動をもっと知っていただくとか、そういうところに出ていって提言をしていくような段階に、今、移ろうとしているところです。なので、キーパーソンのプロモーションをしていただけるシニアの方がいらっしゃったら、後で是非お声かけください。

【竹内】 公的機関ではないんですけども、目的をうまく説明すれば協力してもらえらる団体というのはたくさんあるというのを私たちは感じております。こちらの横浜市の環境創造局の、特に窓口である農政事務所という公的機関ですけども、お手元に配った資料にも書いています。関係先ということで、日本食品リサイクルネットワーク、これはNPOです。ここは、ここに書いていますように、リサイクル堆肥の無償提供を農園にする。これは販売ではないんです。春・秋に軽トラック1杯、350キロに400キロ積んで、毎回運んでもらう。これが無償です。堆肥をこれだけ有償で買ったら、それだけで費用が相当高くなります。それからもう1つ、横浜市の直営のグリーン事業協同組合というのがあって、ズーラシアの横で、例えば植栽、園芸業者の剪定グッズなんかをリサイクルして、農業に使えるリサイクル堆肥を作っているんですけども、これも、我々学校農園という趣旨に対しては、無償で、いくらでも持って行っていいですという形でいただいております。

それから、これは御紹介しましたけれども、森林インストラクターのメンバーとのつながりで、これもNPOで、森林インストラクターネットワークの方々の協力もまたいただいているということで、関連する、いわばそういう団体との協力体制というの、うまくネットワークができれば非常に大きな力になるというふうにも実際の作業を通じて感じておりますので、つけ加えさせていただきます。

【澤岡】 ありがとうございます。やはり御三方のお話の中に非常に共通するものを感じましたのが、イギリスやオランダ、こういった、いわゆる政府が主導でとかということではなくて、住民、住んでいる人たちが、思いでいろいろとやっているNPOであったり、ボランティアであったり、そういった活動を、去年もいろいろと調査に行かせていただいたときに、向こうの団体さんは、すごく見える化、相手に対してどういう、地域に対してどういう効果があるのかということの見える化ということ、すごく一生懸命、そのPRとか、プロモーションとか、いろいろなことで、今、言葉で出てきましたけれども、連携する相手と、朝山先生がおっしゃった、そのウィン・ウィンになるためには、こういう効果

があるよということをやちゃんと見せることができるということにすごく力を割いていたという印象を受けました。

そういう意味でも、今日御登壇いただいた方々は、そういったことを非常に一生懸命やられて、人を集める、それから公的な機関との連携、いろいろなところに関しても、そこを非常にうまく使っているのかなということ、お伺いして、印象として感じております。

私、実は質問したいことがまだまだたくさんあるんですが、残りが30分を切りましたので、一旦、会場の中で、おそらくいろいろなアプローチでやられていらっしゃる方が今日は来ていただいていると思うんですが、もし、今日、こんなことを聞いてみたいというような御質問がありましたら……、その御質問をいただく前に、それぞれの団体で自分が活躍してみたいというお話にしましては、終わった後に個人的にお話をいただくということで、何か御自身で、今、取り組まれている活動、それからこんなことをやりたいと思っているというようなことに照らし合わせまして、何か御質問とか、そういったことがございましたらいかがでしょうか。

【質問者】 質問というよりも、先ほど困ったとおっしゃっていたので、意見ですけども、桑原さんなんか、男性の参加が少ないと。ここに来られている男性は、多分、もういろいろなことをやっていて忙しくて、ちょっと声をかけられても、とても今から……、という人が多いと思うんです。

【質問者】 実は2週間ほど前に、私はいろいろなことをやっていますが、そのうちの1つで、消費生活絡みの講座のボランティアの先生なんかをやって、後期高齢者ですけども、それで、呼ばれて行ったのは、私は世田谷区ですけども、そのシルバー人材センターの、ある地域の何とか組、区の中に7つか8つぐらいブロックが分かれていて、そこが年に2回ぐらい総会をやって、あと懇親会をやる。その前に何か有益な、勉強になりそうなことを1時間弱、4、50分でも聞いて、あと懇親をしましよと、そういう場で、なるべくコストをかけないで有益な話をしてくれるところだと大歓迎されるわけですね。

私はこの2年ぐらいで、住んでいるところから自転車で10分ぐらいのところで、悪質商法とか特殊詐欺に引っかけられないようにという講座をやったこともあれば、震災対策というか、地震のときあなたは大丈夫？ というようなテーマで行ったんですけれども、大体7、80人の参加者の7割以上は男性なんですよ。それは、何らかの社会貢献というか、どちらかという若干の小遣いでもとかということもあるのかもしれないけれども、何か仕事のチャンスがあればといって集まってくるような人たちは、実を言うと男性なんですね。それで、有益なことがあったらもっとやってもいいと思っている人も結構いるんです。だから、そういうところに行かれて、自分たちの話を、話はただでしますよと言って行かれたら、乗ってくる人は結構いるんじゃないのかなと思いました。あとは、私なんかいろいろなことを始めた中のきっかけは、区のお知らせというか、機関紙みたいなものでの募集で委員に応募してとかということから、だんだん枝葉がついていろいろなことをやっていますけれども、ああいう行政のやっておられるお知らせは、いろいろうまく活用されるといいんじゃないかなと思いましたね。

あとそれから、朝山さんが何か仰っていたもので、子供というのはいろいろな可能性を秘めていてという話がさっき出ていたと思いますけれども、知的発達障害者を手伝う活動もしているんですけれども、全然わからない素材がいるんですね。私は、知的発達障害者の合唱の練習を手伝う、月に1回集まって、手伝い出してもう7、8年になるんですけれども、歌の会なんだけれども、歌はどうしようもないぐらい下手くそなのに、何かのときにピアノが弾けるということがわかったら、そのお母さんはピアニストなんですからけれども、3人の子供、ほかの2人は健常者だけれども、ピアノをとっても上手に続けてやってこられているのはこの子だけだというようなこともあって、人間というのはいろいろな才能があるんだけど、というか、バランスよくわるわけじゃないんですね。才能というのは、バランスよくはないんだけど、すごいものを持っているという子供さんはいますね。だから子供の才能を見つけてあげるということをいろいろ工夫されると、すごい人材を発掘できるんじゃないかなと思いました。あともう1つ、この辺に座っている我々のグループで、幼稚園との世代間交流というのもやっていますけれども、子供さんたちに昔の遊びなんかを教えていても、昔の遊びを教えてあげるなんていうのは年に1回とか、頻度が少ない。だけど、保育園の先生も一緒だと、先生にいろいろなことを覚えてもらおうと、それは、我々がやりたいことがその後もフォローされた形で活動は広がるんですね。だから我々が直接やらなくても、きっかけだけ作ってあげると、今の若い先生たちが、自分が育ってくる過程では身につけていないようなことを我々シニアの世代が何かやってあげるといことは、とても広がりがあるといいんじゃないかなと思いましたので、朝山先生なんかのやっておられる活動の中でそういうことをやっていただけるといいなと思いました。

質問とおっしゃったのに、こっちがべらべらと長話をしまして失礼いたしました。

【澤岡】 どうもありがとうございます。そうですね、確かにさっき竹内さんが仰っていた、先生が学ぶことというのも非常に大きくて、それが、ふだん日常的に小学生の方々にお会いしている先生方が学ぶことでより大きな効果が得られるというお話にも何か共通する部分もあるのかなと思って、今、伺っておりました。

【質問者】 それでは質問をいたします。竹内さんのお仕事は前から聞いておまして、竹内さんとも一緒にNPOで別の仕事をやっているんですけれども、子供に科学を教えるというNPOをやっています、小学校に行つて、小学校の部活というか、課外活動でそういうものを教えたりしているんですけれども、これは、校長先生がかわるとがらっと変わるんですよ。熱心な校長先生、それから、それに気づいてくれる校長先生がおられると、それはずっと続くんですけれども、今、お話を伺った鳥が丘小学校というのは、校長先生にお目にかかったことがありますけれども、大変立派な方ですね。その方がおられる限りは大丈夫だと思うんですけれども、その先生がかわって、志を同じくする先生が来られたらいいんだけど、そういうものに全く関心のないような方が、万が一ですよ、来られたりすると、これは大変困ることになると思うんですね。

今のお話をお伺いしますと、行政とのつながりはよくできているし、地域の人とのつながりもよくできているし、それから保護者の人たちにもシンパを十分作っておられるようですけれども、学校は校長がかわると本当にがらっと変わるんですよ。その辺の心配が1つあって、その辺、竹内さんたちはどんなふうにお考えになっておられるのか、それを1つお聞きしたいと思います。それから、こっちのほうに移りますけれども、桑原さんの仕事は、育児というのは僕なんかもだめなんですよ。全然つながらない。ですから質問のしようもないので、すごいなと思いつながら質問できないんですけども。

この辺、どんなふうにして作られたのか、その辺を教えていただけましたら私たちの大変参考になるんじゃないかと思うので、その辺を質問としてお願いしたいと思います。

【澤岡】 どうもありがとうございます。では、竹内さんの、その校長先生の問題ということで、まずは御意見をいただけたらと。

【竹内】 実は今年の3月、ひやひやしたんですよ。今の校長が4年目だったんです。で、交代するかもわからないと御本人が言っていたんです。交代すると、やはり学校の中の基本方針は校長が最終的に決断することが多いんですね。だから校長のリーダーシップといいますか、ある種の学校運営の基本理念というのは非常に柱になるから大事だと思います。

ただ私は、その場合に備えて何が大事かと考えたのは、やはり生徒、先生方、それから保護者、この応援団がしっかりしていたら、どんな校長がきても説得する基盤があるなと思いました。その基盤を全くゼロに蹴飛ばしてでも自分の方針を押しつける校長先生は長くないと思います、多分。やはり教職員の協力があってこそ学校運営がうまくいくんですね。あるいは父兄の協力もPTAを含めてうまくいくんですね。ですから、校長がかわったら、確かにリーダーシップという面では大事だけれども、それを説得するだけの基盤づくりというのをしっかりしておけば、私は半分はうまくいくんじゃないかと。それから先はやってみないとわかりません。

【澤岡】 ありがとうございます。簡単に一言で言ってしまうと、そういう理解力のない校長先生は、おそらく自然淘汰されていくような……。 (笑)

【竹内】 まあ、淘汰まではいかないかもわかりませんが、さっき言いましたように、その学校に長くいられないということにはなるでしょうね。

【朝山】 苦勞を話し出したら終わらなくなってしまうので、端的に申しますと、うちは15年前にこのNPOをつくったので、NPO法が1998年に制定されたんですね。2000年に任意団体として立ち上げていますので、先生方に何か言いに行っても、NPOって何？ どの馬の骨？ と言われちゃったんですよ。

だからそういう苦勞からスタートしていて、まだ学校が閉鎖的で、地域に開放されていないときにスタートをしようとしていたので、そこのところはすごくしんどかったですね。門前払いを何度もいろいろな学校から食らいました。教育委員会に言ってくださいと言われてたりしました。一時は学校とおつき合いしない形で、大学とか地域の市民館みたいなところでやったりしていました。そんなことを経ていって、経産省とか内閣府、厚生労働省、文科省と4省連合で、若者自立調査プランというのが始まって、そこから、キャリア教育って必要みたいな話にだんだんなっていったので、認知されるようになって、で、経産省のプロジェクトを受託できたりとか、文科のプロジェクトを受託できたりということが起きて、だんだんに国と一緒にやっていけるようになっていったと。でも、こんな働いたことのない主婦がやったものですから、いきなり国の事業をやらされたら大変なことになっちゃうわけですね。国の事業をやるということは、本当に緻密な、1円、ちゃんと決算を出さなきゃいけないわけですから、そういうところで、やっぱりシニアの方が、ジジ、バババがすごく協力してくださってやってくださいましたね。それはすごく助かりました。あとは、企業の力をおかりして、企業のこども園プロジェクトという形でやっていたんですけども、リーマンショックが来て、企業が、2社残して、富士通とアルバイトタイムスという企業以外全部一気に撤収なんていうときもありました。

その後、企業に頼ってはいけないんだと気づいて、会員組織、個人は共感すればちゃんとお金を払ってくれるわけですよ。企業は企業のお金ですから、ぱっと撤収しちゃうんだけど、その企業と一緒にやってくださった社員の方が、会員になると言って、皆さん会員になってくださったんです。そういうふうにか何か支えられて、いつも何か困難に直面するんですけども、いつも誰かが助けてくれる。シニア世代の方が助けてくださったり、主婦の方が助けてくださったりという形で、助けられてやってきている。経済的にはなかなか大変なんですけれども、なので8本足で立っているような感じです。うちの場合、1つの事業で立つということができないんです。1本の事業だと潰れちゃう。企業が撤収したらアウト、行政がこの方針を変えますと言ったらアウト、だから、会員だったり、学校からいただくお金だったり、企業からいただくお金だったり、そういうたかさんの、いろいろな種類のお金で成り立っているというようなやり方をやったりとかしております。

【澤岡】 立てないと、今、謙虚におっしゃいましたが、今、会場からも、いや、8本も立てられるってすごいという、そのリスクを分散できる1つの底力がついていらっしゃるNPOという、皆さん驚かれたと思いますが。

【質問者】 私、この3人の方それぞれが、それぞれ素晴らしい活動をしているということでは感心させていただきまして、それでもなお、ちょっと私が気になることを言わせていただきたいなと思います。もともと私はボランティアセンターの関係の仕事をしておりまして、定年退職して10年以降は、それに関係するボランティア活動をしているんですけども、3人の皆さんの共通するところは、やっぱりボランティアリズムというのをそれぞれの方がその心の中に持っていて、自分が誰かのためにやったら、実は自分のためにすごくよかったというものをいただけているということ、3人ともそういうふうに使っていただきました。

それから、竹内さんのところで、私、ちょっと気になるのは、わくわく農園の9名の方というのは、皆さん男性がメンバーですか。男女いろいろ。それで、その方たちが常に実際の事業をされているわけですよ。行政は応援団をしてくださっているわけですね。私は、横浜市って応援がすごい上手なものも知っているんですけども、今日、この看板を見たときに、わくわく農園というのを大きく出して看板をつくった最初のところのほうがよかったんじゃないかしらと。むしろ、その教育というのはサブタイトルでやると、行政がすごく支援しているというのがわかるように、一般市民の人が、自分たちのまちにはこういうわくわく農園があるんだよというような誇りにするには、こういうグランパの方々が、民間のこういう方がやっているよというのをPRするほうがいいんじゃないかと。今日は行政の方がいらっしゃっているというので申し訳ないですが、私の感想としては、そういうふうに使って使っています。もう少しやり方があるかなと。学校でお互いに、行政と、それからボランティアさんと、皆さんの関係がものすごく素晴らしいと思って、そういうことを承知の上で、でも市民に対する、それからそこを通りかかる人たち、地方から来た人たちに対して、この人たちがやっているんだよというのをもっと表に出してもいいんじゃないかなというふうに感じました。それからBABAラボさんですか、実は私、障害児をボランティアの人がおもちゃで遊ばせるというおもちゃの図書館というのを作るとき、最初に関わって、今でもその活動に参加しているんですが、皆さん99%が女性です。やはり女性の力で、子供一人一人の、障害のある子供さんの個性をつかんで、その子供に合った遊ばせ方というのは、やっぱり男の人は無理なんですね。男性が参加してくださるところを見ますと、おもちゃを修理してくださるんですね。どこかに、移動おもちゃ図書館に行くとき運転をしてくださる。それは口コミなんですよ。それで、会員の中の人の誰か、息子さんとか、御主人とか、そういう人が最初参加しながら広がっていくので、私は、そんなに心配しないで、どんどん声をかけたいと思っています。女性だけでも素晴らしい活動をしている、その、今ある人たちを見ていると、そういう感じを受けます。それから朝山さんは、私の友人で、諏訪でフリースクールを始めた人がいるんですね。その方が、川崎の中原区にすごくいい活動をしているところがあって、ヒロコさん、どこだどこだと言われて、私も今日初めて来て、あ、ここだというのを……、というのは、私も新城で、中原区に住んでいるものですから……。

【澤岡】　ここら辺で御質問タイムを締めさせていただきますと思います。ここからは、残りあと4分ほどになります。皆さんに、あと追加で、プラス5分ほどいただきまして、最後に、この御三方が、今までの長い蓄積、取組をされてきていますが、今後の展望とございますか、今後こういうことにチャレンジしてみたいとか、こういう課題解決を図ってみたいなど、そういったことを、これから、お時間が限られておりますので、お一人当たり1分半で、ここからはお話しいただきまして、最後の締めとさせていただきますと思います。まず、では竹内さんからお願いいたします。

【竹内】　私どもの農園を中心とする学校との関わり方、食育に結びつく活動というふう位置づけはしていますけれども、やはり今、共通のいろいろな話題になっています、地域における存在感というのをいまいち広げていきたい、地域とのかかわりをもっと深めたい、そのためには学校だけではなくて、地域の皆さんとの、いわば農園の運営とございますか、そういう喜びを共有できたらなというふう考えております。

【桑原】　私は、年金プラスアルファ、アルファというのはお金だったり、あとは地域とのつながりだったり、そういったものがつくれる働く場所というのを、そういったBABAラボみたいな場所をいろいろな地域にもっと展開していきたいと思っています。自分がBABAラボとしていろいろ支店を出していくのもよし、あとそういったことをやりたいと言っている人にもどんどんノウハウを提供して、いろいろな地域で、みんなが働きたいと思ったときにふらりと働けるような場所というのをどんどん作っていきたくてと思っています。あとは「JJIラボ」も頑張ります。

【朝山】　先ほども申しましたけれども、私たち、学校教育の現場に入ってやらせていただいているんですけども、今後は、もちろんそれも並行してやるんですけども、結局のところ、一人一人の子供のところに落とし込まないと、なかなかその子の幸せになっていかないので、集団のキャリア教育から、徐々に個人、この子はどういう未来に進みたいのかということに落とし込めるプログラムの強化をより充実して、発展させていきたいと思っております。そのためには、やっぱり親の理解、先生の理解、大人たち、企業や、行政や、皆様と御一緒に子供を育てるんだという意識を当たり前のこととして認識してもらえよう社会風土を作っていけたらなと思っております。

【竹内】　1つ言い忘れました。学校、特に小学校の先生方、これは忙しい。それからまた科目をたくさん持っているのではなかなか余裕がない中で、ポテンシャルティの面から言うと、私たち、ちょっと不満が多いんですが、その学校の先生の研修だとか育成という面にお役に立てばというのが夢のまた1つです。

【澤岡】　竹内さん、さっき、10年後は自信がないと、ちょっとおっしゃいましたけれども、今のお話を伺っていると、10年じゃちょっと足りないようなところもあるのかなと思って、今、伺っておりました。おそらく日本の社会を変えていくジジの力、バァバの力の、まさにこちらはお手本の方がお隣にいらっしゃるんだなと思っております。最後、私のパソコンにつないでいただけますでしょうか。先ほどもお見せした、この図なんですけど、今、御三方に報告いただきました中で、おそらくこの中に入っていることが、全て、皆さん、今、いろいろなアプローチで取り組まれていらっしゃるのかなと思います。それこそ年金がこれからどんどんお金が少なくなっていく中で、今、桑原さんが仰っていただいたような、年金プラスアルファの働き方が地域でできるようなことということもすごく重要になってくるというお話だったり、皆さんのお話の中にこういったことが全て含まれているのかなと思えました。そういう意味でも、今日は確かに、世代間、ジジとバァバ、それから孫世代がどうつながるか、お互いにどういい連携、これは綱引きになっているんですが、お互いにいいつながりを作っていくかということが大きなテーマではありましたが、さらに大きなテーマといたしましては、新たな時代の地域づくり、人とのつながり、そういったことを考える上での大きな具体的な取組のあり方を皆さんに考えていただけたのかなと思っております。今日、お忙しい中、貴重な御報告をいただきました御三方に、皆さん、拍手をいただけたらと思います。どうもありがとうございます。